

2021年4月22日
JR東日本 仙台支社

JR 東日本仙台支社における ESG 推進の取り組みについて

JR 東日本グループでは、ESG 経営を実践し、事業を通じて社会的課題の解決に取り組むことで、地域社会の発展への貢献と、SDGs の達成に力を注いでいます。「環境」については、2050 年度の鉄道事業における CO₂ 排出量「実質ゼロ」の実現に向けた取り組みや、イノベーションへの挑戦を行っています。「社会」については、復興における第 2 ステージとして、被災地域の活性化を促進するための取り組みや、地方が成長し続け自立できる仕組みが循環していくよう、地域と一体となった開発を進めています。「ガバナンス」では、トッププライオリティである「究極の安全」に向けた取り組みや、コンプライアンス体制の強化などに取り組みます。

今回は、仙台支社における ESG 推進に向けたこれまでの主な取り組みについて紹介します。これからは仙台支社では SDGs の達成に向け、地域の皆さまとともに歩んでいきます。

○主な取り組み（【E】：環境 【S】：社会 【G】：ガバナンス）

(1) 地域共生及びエネルギーや CO₂ 削減の取り組み【E・S】

今年 2 月に開業した JR 仙台イーストゲートビルや、今秋に完成予定の JR 東日本仙台支社ビルでは、地域に根差した取り組みや、環境に配慮した取り組みを行っています。

- ・ エントランス壁面等に宮城県産木材を採用し、地域資源の活用と木材利用による CO₂ の削減
- ・ BEMS※により照明や空調のエネルギー消費量を監視・分析し、最適な運転状態にコントロールすることでエネルギー使用量を低減

※BEMS：Building and Energy Management System の略（ビル・エネルギー管理システム）。



JR 仙台イーストゲートビル
1 階ダテリウム



JR 東日本仙台支社ビル
1 階エントランス（イメージ）

(2) 鉄道林間伐材を利用したバイオプラスチック製品の開発【E・S】

（株）事業革新パートナーズ（川崎市）・JR 東日本スタートアップ（株）（東京都）と協業し、鉄道林の間伐材を利用した天然由来素材 100% のバイオプラスチック製品を開発しました。引き続き、実用化に向け、商品開発を行っています。



開発したバイオプラスチック製品
（タンブラー）

(3) 食品リサイクル・バイオガス発電事業への参画（㈱東北バイオフードリサイクル 仙台工場）

【E・S】

㈱東北バイオフードリサイクル 仙台工場（仙台市宮城野区、2022年春に営業開始予定）において、食品リサイクル・バイオガス発電事業に参画します。1日最大40tの食品廃棄物を微生物により発酵し、発生したメタンガスを燃料に発電します。地域の持続的発展のため、グループ会社と連携して食品廃棄物のリサイクル推進に取り組んでいきます。

- ・仙台駅内の店舗やホテルメトロポリタン仙台などから排出される食品廃棄物を燃料として使用予定
- ・食品廃棄物を排出する企業に、当該事業の活用を呼びかけ、食品廃棄物のリサイクル拡大を推進



㈱東北バイオフードリサイクル 仙台工場イメージ (CG)

(4) フードバンク団体への寄贈【E・S】

地域共生と廃棄ロスの取り組みとして、災害備蓄品の買替えに伴い、フードバンク団体（特定非営利団体「ふうどばんく東北 AGAIN」(富谷市)）へ災害備蓄品を寄贈しました。(2021年2月22日寄贈)

- ・寄贈した災害備蓄品：飲料水、食品類



フードバンク団体へ寄贈

(5) 東北の食材の販路拡大の取り組み（列車荷物輸送）【S】

新幹線の速達性、定時性といった強みを生かし、新幹線を活用して地域の魅力ある食材や地産品などを鮮度よく首都圏や北海道方面へ輸送し、地域事業者の販路拡大に取り組んでいます。今後、在来線を活用した輸送もさらに拡大していきます。

《主な列車荷物輸送実績》

- ・東北新幹線 8月26日・27日・28日（海産物・首都圏）
9月18日・20日（梨、ブドウ・北海道）
- ・山形新幹線 11月5日（ラ・フランス・首都圏）
- ・在来線 10月31日～（駅弁・会津若松）

※2020年度仙台支社実績 全21件（うち1件は在来線輸送）



列車荷物輸送
仙台駅にて鮮魚類を積み込み

(6) 自治体の復興事業と連携した取り組み（JRフルーツパーク仙台あらはま）【S】

仙台ターミナルビル(株)では、2021年3月18日に体験型観光農園「JRフルーツパーク仙台あらはま」を開業しました。グループ会社と連携し、輸送ネットワークを活用した新幹線荷物輸送、産直市などを活用した首都圏でのPR、SNS等を活用した情報発信に取り組んでいます。



JRフルーツパーク仙台あらはま
(イメージパース)

(7) 農業生産者支援の取り組み【S】

コロナウイルスの影響を受けた農業生産者支援として、さくらんぼ収穫作業のお手伝いをさせていただきました。

- ・2020年6月10日、16日、17日、19日の計4日、延べ86名の社員が参加



社員によるさくらんぼの
収穫作業

(8) 「ふくしまルシェ」の開催による地域活性化の取り組み【S】

地域活性化に資する取り組みの一環として、自治体や地元事業者の皆さまにご協力をいただき、「ふくしまルシェ」を初開催しました。

- ・ 2020年11月14日開催（JR 福島駅東西駅前広場）
- ・ 地域色を出したイベントブースの出店（地元の食品や雑貨の物販、観光、NHK連続テレビ小説「エール」及び地元サッカーチームのPR等）
- ・ 福島駅社員によるミニ新幹線コーナーや、福島の景色を満喫できる写真撮影コーナーなどのイベントを実施



イベントの様子
(福島駅東口)

(9) ダイバーシティの更なる推進や共生社会の実現の取り組み【S】

障がいを持つアーティストの作品をプロデュース・発信している㈱ヘラルボニー（本社：岩手県盛岡市）のご協力をいただき、SDGsの達成に向けた意識向上を目的に、アート作品の展示や社員へのマスクの配付を行っています。

① アート作品の展示（仙台駅）

「るんぴにい美術館」（岩手県花巻市）所蔵の障がいを持つアーティストの作品を展示。

- ・ 仙台駅1階…2021年2月18日～3月27日の間、展示
- ・ 仙台駅1番線ホーム（改札内：東京方面）

…2021年3月29日～今後2カ月程度展示予定



展示の様子（仙台駅1階）

② ESGへの意識向上に向けた社員へのマスク配付

「NPO法人 多夢多夢舎中山工房」（仙台市）を利用される知的障がいのあるアーティストがデザインしたマスクを社員へ配付し、ESGに関わる取り組み時などに着用することで、SDGsの達成や障がいがある人も活躍できる社会づくりについて社員一人ひとりが考える取り組みを行っています。



配付したマスク

(10) 「環境教育プログラム」（出前授業）による環境教育の実施【S】

持続可能な社会に貢献するため、地域の小学生を対象に「環境問題」や「社会とのつながり」を理解してもらうための「環境教育プログラム」（出前授業）を実施しています。今年度も継続して実施を予定しています。

- ・ 2020年度実績：6校



出前授業の様子

(11) JR 仙台病院における地域との連携の取り組み【S・G】

患者のQOL（Quality of Life）を維持・向上し、病院と地域を切れ目なく繋ぐ医療提供を目的に、認定看護師が「地域包括ケアシステム」における地域との連携に取り組んでいます。

- ・ 地域包括支援センターや訪問看護ステーション、小規模多機能型居宅介護施設等との意見交換や、地域関係者等との連絡体制の構築



認定看護師による打ち合わせ

- ・ 認知症看護認定看護師の介護予防教室への参加
- ・ コロナ禍における患者を支援する側の備えや地域住民への備えについて、感染管理認定看護師による講話を開催

(12) 人権セミナーの開催【G】

社員の人権意識の醸成を目的として、毎年度社内にて人権セミナーを開催しています。今回は、車いすバスケットボール日本代表候補選手である藤本怜央氏をお招きし、ご講演いただきました。

(2021年4月21日開催)



人権セミナーの様子

【参考】

- 「JR 東日本グループレポート 2020 INTEGRATED REPORT」について
「JR 東日本グループレポート 2020」は、JR 東日本グループが統合報告書として、昨年初めて発行したレポートです。一昨年までは「アニュアルレポート」と「サステナビリティレポート」を発行してきましたが、グループの中長期的な価値創造についてのご理解をより一層深めていただくとともに、事業活動におけるサステナビリティの取り組みをワンストップでわかりやすく紹介し、多様なステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを図ることを目的として本レポートは作成されています。



JR 東日本グループレポート 2020
INTEGRATED REPORT

URL: <https://www.jreast.co.jp/eco/report/2020.html>